2019年度「社会学概論Ⅱ」講義要綱

【担当】上村泰裕　kamimura@nagoya-u.jp

【注意】

www.lit.nagoya-u.ac.jp/~kamimura/is.htmのレジュメを予習のうえ持参して下さい。

なお、本田喜代治『社会学史入門』は以下からダウンロードして予習して下さい。

www.lit.nagoya-u.ac.jp/~kamimura/honda.pdf

【授業の目的】

社会学は社会問題をどのように捉え、どのような政策形成を支えてきたのか。また、社会問題と向き合うなかで、社会学自体はどのように形成されてきたのか。政策という観点から社会学の歴史を読み直し、古典を未来に活かす道を探りたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

学期末の論述試験（毎回のコメントも参考にすることがあります）。講義の内容を理解したうえで、さらにどれだけ自分で研究を進めたかを問います。具体的には、文献リストにある本のうち少なくとも一冊は読んで、自分の社会学を構想しておいて下さい。

【予定】

10月11日　資本主義が生んだ孤立と貧困――エンゲルス

10月18日　有機的連帯のための同業組合――デュルケーム

10月25日　政策論議における科学と政治――ヴェーバー

11月1日 　70周年企画――本田喜代治の社会学史から①

11月8日 　70周年企画――本田喜代治の社会学史から②

11月15日　上からの政策と下からの連帯――シュモラー、ブレンターノ

11月22日　社会調査に基づく政策立案――ウェッブ夫妻

11月29日 　戦争から福祉国家への青写真――ベヴァリジ、ポランニ

12月6日 　福祉国家行政を支える社会学――マーシャル、ティトマス

12月13日　福祉国家の危機と国際比較――ウィレンスキー、エスピン‐アンデルセン

12月20日　福祉社会とＮＰＯの社会学――パットナム、スコッチポル

1月10日 　番外編

1月24日 　期末試験

【年表】

エンゲルス1820～1895

デュルケーム1858～1917

ヴェーバー1864～1920

シュモラー1838～1917

ブレンターノ1844～1931

ベアトリス・ウェッブ1858～1943

シドニー・ウェッブ1859～1947

ベヴァリジ1879～1963

ポランニ1886～1964

マーシャル1893～1981

ティトマス1907～1973

ウィレンスキー1923～2011

エスピン‐アンデルセン1947～

パットナム1941～

スコッチポル1947～

【文献リスト】（◎は主に取り上げる本）

資本主義が生んだ孤立と貧困――エンゲルス

◎エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態――19世紀のロンドンとマンチェスター』（岩波文庫、1990年〔原著は1845年〕）

ハント『エンゲルス――マルクスに将軍と呼ばれた男』（筑摩書房、2016年）

マルクス『経済学・哲学草稿』（光文社古典新訳文庫、2010年〔原著は1844年執筆、1932年刊行〕）

ブランデイジ『エドウィン・チャドウィック――福祉国家の開拓者』（ナカニシヤ出版、2002年）

安保則夫『イギリス労働者の貧困と救済――救貧法と工場法』（明石書店、2005年）

横山源之助『日本の下層社会』（岩波文庫、1985年）

有機的連帯のための同業組合――デュルケーム

◎デュルケーム『自殺論』（中公文庫、1985年）

デュルケーム『社会分業論』（青木書店、1999年）

スミス『国富論――国の豊かさの本質と原因についての研究』（日本経済新聞社、2007年）

トクヴィル『アメリカのデモクラシー』（岩波文庫、2005～2008年）

パーソンズ『社会的行為の構造３』（木鐸社、1992年）

マートン『社会理論と社会構造』（みすず書房、1961年）

折原浩『デュルケームとウェーバー――社会科学の方法』（三一書房、1981年）

政策論議における科学と政治――ヴェーバー

◎ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』（岩波文庫、1998年〔原著1904年〕）

◎ヴェーバー『職業としての政治』（岩波文庫、1980年〔原著1919年〕）

ウェーバー『社会主義』（講談社学術文庫、1980年〔原著1918年〕）

ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波文庫、1989年）

ヴェーバー『職業としての学問』（プレジデント社、2017年〔原著1919年〕）

◎モムゼン『官僚制の時代――マックス・ヴェーバーの政治社会学』（未來社、1984年）

長部日出雄『マックス・ヴェーバー物語――二十世紀を見抜いた男』（新潮選書、2008年）

上からの政策と下からの連帯――シュモラー、ブレンターノ

シュモラー『国民経済、国民経済学および方法』（日本経済評論社、2002年〔原著1911年〕）

◎ブレンターノ『現代労働組合論（上）イギリス労働組合史』（日本労働協会、1985年〔原著1871年〕）

ブレンターノ『わが生涯とドイツの社会改革――1844～1931』（ミネルヴァ書房、2007年〔原著1931年〕）

◎田村信一『グスタフ・シュモラー研究』（御茶の水書房、1993年）

社会調査に基づく政策立案――ウェッブ夫妻

ウェッブ夫妻『産業民主制論』（法政大学出版局、1969年〔原著1897年、邦訳1927年〕）

◎ウェッブ夫妻『社会調査の方法』（東京大学出版会、1982年〔原著1932年〕）

ウェッブ夫妻『大英社会主義社会の構成』（木鐸社、1979年〔原著1920年〕）

◎江里口拓『福祉国家の効率と制御――ウェッブ夫妻の経済思想』（昭和堂、2008年）

コール『ウェブ夫人の生涯』（誠文堂新光社、1982年）

小峯敦編『福祉国家の経済思想――自由と統制の統合』（ナカニシヤ出版、2006年）

小峯敦編『福祉の経済思想家たち』（ナカニシヤ出版、2007年）

社会保障研究所編『社会保障論の新潮流』（有斐閣、1995年）

戦争から福祉国家への青写真――ベヴァリジ、ポランニ

◎ベヴァリジ『社会保険および関連サービス――ベヴァリジ報告』（至誠堂、1969年）

　www.fordham.edu/halsall/mod/1942beveridge.html

ベヴァリジ『ベヴァリジ回顧録──強制と説得』（至誠堂、1975年）

◎小峯敦『ベヴァリッジの経済思想――ケインズたちとの交流』（昭和堂、2007年）

◎ポラニー『大転換――市場社会の形成と崩壊』（東洋経済新報社、2009年）

デイル『カール・ポランニー伝』（平凡社、2019年）

ロドリック『グローバリゼーション・パラドクス――世界経済の未来を決める三つの道』（白水社、2013年）

福祉国家行政を支える社会学――マーシャル、ティトマス

◎マーシャル『シティズンシップと社会的階級――近現代を総括するマニフェスト』（法律文化社、1993年）

◎マーシャル『福祉国家・福祉社会の基礎理論――「福祉に対する権利」他論集』（相川書房、1989年）

◎マーシャル『社会学・社会福祉学論集――「市民資格と社会的階級」他』（相川書房、1998年）

ティトマス『福祉国家の理想と現実』（東京大学出版会、1967年）

◎ティトマス『社会福祉と社会保障』（東京大学出版会、1971年）

ティトマス『社会福祉政策』（恒星社厚生閣、2003年）

福祉国家の危機と国際比較――ウィレンスキー、エスピン‐アンデルセン

◎ウィレンスキー『福祉国家と平等──公共支出の構造的・イデオロギー的起源』（木鐸社、1984年）

◎エスピン‐アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界──比較福祉国家の理論と動態』（ミネルヴァ書房、2001年）

◎エスピン‐アンデルセン『ポスト工業経済の社会的基礎──市場・福祉国家・家族の政治経済学』（桜井書店、2000年）

◎エスピン‐アンデルセン『アンデルセン、福祉を語る――女性・子ども・高齢者』（ＮＴＴ出版、2008年）

福祉社会とＮＰＯの社会学――パットナム、スコッチポル

◎パットナム『哲学する民主主義──伝統と改革の市民的構造』（ＮＴＴ出版、2001年）

◎パットナム『孤独なボウリング――米国コミュニティの崩壊と再生』（柏書房、2006年）

パットナム『われらの子ども――米国における機会格差の拡大』（創元社、2017年）

◎スコッチポル『失われた民主主義――メンバーシップからマネージメントへ』（慶應義塾大学出版会、2007年）